

☆東海農政局長賞

【横輪町活性化委員会】

代表者 : 岡 惣松

所在地 : 三重県伊勢市横輪町

1 地域の沿革と概要

伊勢市は、三重県の中東部に位置し、伊勢志摩国立公園の玄関口にあたる。山と海が美しく融和した風光明媚な古都で、伊勢神宮の鳥居前町として『お伊勢さん』の名で親しまれ、長い歴史を刻んできた。温和な気候風土に恵まれた地である。

横輪町は、伊勢市の南部に位置する中山間地域である。人口は97人で、その4割にあたる41人が65歳以上の高齢者となっている。

横輪町には、全国でここにだけ咲く珍しい桜「横輪桜」や、粘りの強い山芋「横輪芋」などの地域特産物がある。

また、冬季にこの地域を激しく吹き抜ける強風から家屋を守るための石垣が数多く残存しているほか、平家落人伝説が言い伝えられているなど、先人たちの営みによって長い時間をかけて築かれてきた趣深い景観が、この地を訪れる人々を癒している。

2 むらづくりの動機、背景

ア むらづくりを推進するに至った動機、背景

横輪町では過疎化・高齢化が進み、地域の活動を担う住民の大部分が高齢者という状況にあるため少ないながらも存在する若手住民は、「このままでは自分達が住まう地域が崩壊してしまう」という危機感を持っていた。

そこで平成14年10月に横輪町内の若手住民有志メンバー7名により、任

位置図



里山に咲く横輪桜

意の検討会である「横輪町活性化委員会」を結成した。

イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容
当初横輪町活性化委員会は、平成15年3月の横輪町総会において町の承認を得て10名の若手メンバーで構成し、まず「むらづくりの絵」を描くことから始め推進派や消極派双方の人たちにもメンバーに加わってもらい合意形成を図っていくこととした。

ところが、むらづくりが動き始めた矢先に、突然、メンバーのうち二人が若くして急逝するという不運にも見舞われたが、通算78回に及ぶ会合を重ねる中で、持続可能な取り組みを行っていくためには来訪者との交流や経済的な効果が必要であるとの結論が導き出された。

そのため、豊かなむらづくりでも表彰を受けているような県内外の視察にも出向き、高齢者の人たちにも参加してもらい、その意見も取り入れながら、横輪町全住民に賛同してもらえるような計画策定を行ってきた。

平成17年10月に町の臨時総会においてこの横輪町活性化計画は機関決定され、活動拠点となる伊勢市都市農山村交流促進施設が横輪町に整備されることとなった。その後、同施設の管理指定を受けるために規約や運営体制等を整備した結果、平成18年6月1日付けで現在の「横輪町活性化委員会」が町臨時総会の承認を得て設立された。

そして、この施設を「郷の恵『風輪』」と名付け平成18年11月にオープンし、その翌年の1月には横輪町活性化委員会が同施設の指定管理者を受託することになった。

ウ 現在に至るまでの取組の経過等について

「郷の恵『風輪』」を活動拠点として、横輪町の活性化に向け多岐にわたる活動に取り組んできた。

横輪町自慢の特産物である、粘りの強い山芋「横輪芋」を、横輪町活性化委員会が遊休農地を借り、栽培から収穫、そして販にいたる取り組みを始め、現在では「横輪芋収穫感謝祭」の開催や、「郷の恵『風輪』」の定番メニュー「横輪芋とろろうどん」への利用、県立相可高校食物調理科との連携による「横輪芋かるかん馒头」の開発など、商品として活用されるまでになった。



強風から家屋を守る石垣



「郷の恵『風輪』」



横輪芋

また、横輪町の景観に欠かせない石垣は、地形に起因する冬季の激しい強風の「横輪風」から家屋を守るため、先人たちの知恵によって築かれたこの地域独自の施設であるが、こうした町の景観を紹介する DVD や、来訪者に町内を散策してもらうための「風石巡りマップ『風みなと 横輪』」を制作し、町を訪れた都市住民に紹介している。

さらに、横輪町でしか見られない「横輪桜」の開花時期に実施するまつり、日本屈指の清流・宮川の支川である横輪川に生息する「ゲンジボタル」鑑賞のための夜間イベント、趣ある景観のなかで楽しむでもらう「お月見」など、横輪町ならではの資源を活用しながら「癒しの空間づくり」をコンセプトにした四季折々のイベントを創出し、都市住民、そして様々な世代との交流を図っている。

イベントの開催にあたっては、横輪町民だけで取り組むことが難しいため、伊勢志摩地域の若者で構成された「昔しゃい祭り実行委員会」による企画運営協力を始め、伊勢市内で里山づくりに取り組む「有限責任事業組合 楽農村」、伊勢青年会議所、宮川流域ルネッサンス協議会等との連携によって実施している。

さらに、情報発信としてホームページの制作、横輪町出身の演歌歌手にるキャラバン活動を積極的に行っている。

こうした活動を通じ、「むらづくり」にとって最も重要なことは、地域を愛し、地域のために活動する人材を育てる「ひとづくり」であることに気づいた。自分たちの地域を未来へつなげていくために、さらなる「ひとづくり」に取り組んでいきたいと考えている。



地域や世代を越えた交流



メディアへの取材協力

3 むらづくりの推進体制

ア 組織体制、構成員の状況

横輪町活性化委員会は97名の横輪町民全員が会員となっており、横輪芋の栽培、横輪桜の植栽、イベントの実施、環境保全の取り組みなどに町ぐるみで取り組んでいる。会員は、原則年1回の総会で年間方針を決定し、委員会の中に理事会が設置されており、会長1名、副会長1名、書記及び会計が各1名、理事10名の計14名(うち女性3名)で構成されている。理事会は原則月1回開催され、事業の企画運営や、「郷の恵『風輪』」



「郷の恵『風輪』」の店内

のマネジメントなどを行なっている。

また、横輪町活性化委員会の活動拠点「郷の恵『風輪』」の店舗運営には、横輪町民の女性10名が従業員として携わっており、女性の視点を活かした来訪者の「おもてなし」の中心的役割を担っている。

イ 他の組織、団体及び行政との連携

平成22年2月に（社）伊勢市観光協会に会員として加盟し、横輪町の情報発信を行うとともに特産物の開発のため、県立相可高校の食物調理科とも昨年からの連携を始めた。

その結果、同校生徒のプロデュースにより、横輪桜まつり限定の「横輪桜弁当」や、横輪芋を活用した「横輪芋かるかん饅頭」などの商品が新たに生まれた。

また、三重県の事業である「きっかけづくり事業」や「美し国おこし・三重」などにも参画している。

伊勢市においては市ホームページへの掲載や記者クラブへの情報提供等、情報発信に協力してもらっているほか、地域自治を推進する事業「ふるさと未来づくり」に参画し、横輪町とその周辺4町(上野町、円座町、神菌町、矢持町)で構成する沼木地区の一員として、新たなコミュニティづくりにも積極的に取り組んでいる。



横輪芋かるかん饅頭

4 むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

ア 農林漁業生産、流通面の取組状況

「郷の恵『風輪』」を活動拠点として取り組んだイベント等の開催により、特産品の販売が促進された。それに伴って町民の生産意欲が向上し、さらには耕作放棄地の減少という波及効果も出ている。

特に、横輪芋については以前は町民が自家消費のため僅かに作っていたものが、平成20年度は約1.5トン、平成21年度には約2トン収穫するまでになった。これは、活性化の一環として、横輪町活性化委員会が遊休農地を借りる取り組みを開始したことより、個人でも横輪芋の栽培に取り組む人が増え、町内の横輪芋の作付け面積は現在約20アール（町内の畑耕地面積の1/3程度）に広がっている。



横輪芋の収穫

流通面においては、これまで「郷の恵『風輪』」における店頭販売を中心と

してきたが、横輪芋のインターネット販売の試みも開始したところ、関東方面からの注文も入るなど、今後の販路拡大への可能性に期待がもたれている。

平成18年11月に「郷の恵『風輪』」がオープンして以来、横輪町の来訪者数は年を追うごとに増え、同様に、「郷の恵『風輪』」における売上も年々増加傾向にある。これは、活性化委員会の積極的な取り組みにより、横輪町のファンが次第に増えていった成果が現れているものと考えられる。

表： 「郷の恵『風輪』」における購買客数と、横輪町来訪者数の推移 (単位：千人)

年度	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
購買客数	7	13	16	19
来訪者数	27	52	65	75

※ 平成18年度は、11月のオープンから3月末までの実績。

表： 「郷の恵『風輪』」における売上額の推移 (単位：万円)

年度	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
売上額	544	1,294	1,390	1,667

※ 平成18年度は、11月のオープンから3月末までの実績。

イ 女性の経営参画の状況等について

「地元の食材を使った名物が何か出来ないだろうか」と、横輪町活性化委員会の女性のメンバーで考えた末に出た答えが、町に伝わる平家落人伝説と東海地方で食される五平餅をヒントにした「御平家餅」である。

また、「郷の恵『風輪』」の定番メニューとなっている「横輪芋とろろうどん」も、横輪町特産の横輪芋と、伊勢市の郷土食である伊勢うどんを組みあわせることで誕生したものである。

「郷の恵『風輪』」のオープンにあたって開発した「御平家餅」と「横輪芋とろろうどん」は、今や、売上げの主力商品に成長し、地元産の米や横輪芋の消費拡大に貢献している。「郷の恵『風輪』」の店舗運営を担っているのは10人の女性町民であるが、ここで地元産品の販売に直接携わっていることが「生きがい」となり、次の新しい商品開発にかける意欲の原動力にもなっている。



5 むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

ア 生活・環境整備面の取組状況

①□ 横輪桜の植栽促進

約20年前から、住民有志が専門家のアドバイスを受けるなどし、費用の自己負担も伴いながらも横輪桜を増やしてきたが、この活動は、横輪町活性化委員会に継承され、今では町内に約2,000本の横輪桜が植栽され、横輪町に欠かすことのできない存在となっている。

② ゲンジボタル幼虫と、その餌となるカワニナの増殖

日本屈指の清流・宮川の支川である横輪川は、絶好のホタル観察スポットとなっており、6月頃にはホタルまつりを開催している。

横輪町活性化委員会では、ゲンジボタルの幼虫と、その餌となるカワニナの増殖を手がけている。



小学生と実施したホタル幼虫の放流

③町民全員体制による環境整備

横輪町は山間部にあり、イノシシ、サル、シカ などによる獣害が発生するため、町民の協力体制により柵の設置等の防除策を講じている。昔からの伝統である「出会い」により、町民による自主的な林道や山の整備も行われている。

また、他の地域の人から「見られている」ことを意識するようになった町民ひとりひとりが、いつの間にか自主的に環境整備に取り組むことで、気がつけば町内の生活環境全体も美しく保たれるようになっている。

イ 生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化等への寄与状況

横輪芋など特産物の生産、横輪桜の植栽等の景観整備、イベント開催による都市住民との交流などの活動を通じて、町民どうしの繋がりが強化されるとともに、高齢者に「朝起きたらやることがある」という前向きな気持ちが生まれ、結果として町の高齢者の表情は以前よりも格段に明るくなった。

自分たちの地域資源や伝統文化を次世代に継承することが横輪町民にとっての夢であり、未来を担う若者へバトンを渡すには、今バトンを持っている高齢者が元気でなくてはならない。横輪町活性化委員会の「むらづくり」は、その活動に生きがいをもって取り組む高齢者の「幸せづくり」でもある。今後も、元気で幸せな横輪町の高齢者たちが、地域を未来につなげる活動の推進力となって活躍していくこととなる。

ウ 他地域からの定住促進、女性の社会参画の促進状況等

過疎化が進むなか、地域への定住を促進することが課題となっているが横

輪町活性化委員会では、イベント開催等を通じて、若者たちに横輪町のファンになってもらうことから始め、将来的には住んでみたいと思ってもらえるような働きかけを行っている。

その第一歩として、イベントの企画運営に協力してくれている伊勢志摩地域の若者たち「誓^{ちか}しゃい祭り実行委員会」のメンバーが、今年から、横輪町内の水田を借りて稲作を始めた。単なる田植え体験ではなく、借地料、苗代、肥料代等の経費を若者たちで負担し、田おこしから収穫までを一貫して取り組むというものである。代かき、畦塗り、田植えなど、ひとつひとつの作業を、横輪町の高齢者のアドバイスのもとで進めている。



② 活性化活動における女性の参画

以前は表舞台に立つことの少なかった女性が、今では積極的に活性化委員会の活動に参画する状況になっている。委員会理事 14 名中 3 名を女性が務めていることや、「郷の恵『風輪』」における運店舗営スタッフとして 10 名の女性が従事していること、その他、新たな特産物の開発に携わっていることなど、横輪町活性化委員会の活動が、自然な形で女性町民の活躍できる場づくりにつながっている。

6 むらづくりに関する所見

町の過疎化や高齢化が進み、「自分達の住む地域が崩壊するかもしれない」との危機感と、「地元をよくしたい、何とかしたい」との強い思いのもと、横輪町活性化委員会が結成され、その後、幾度となく会合を重ね、合意形成を図ってきた。また、町民 97 名全員が横輪町活性化委員会の会員であり、ひとりひとりが主体的に活性化の活動に携わっている。

また、横輪町は横輪桜、横輪芋、防風のための石垣など、稀少かつ特色ある資源に恵まれた町であったことを、町民自らがこれらの価値に気づき、横輪芋の栽培と商品化、「御平家餅」等の特産物開発、横輪桜の植栽、石垣巡りマップの制作やガイドツアー、四季折々の地域資源を活用したイベント創出など、数多くの努力と創意工夫を重ねてきた。

その結果、現在では、人口 97 人の町に年間、数万人もの来訪者を集める魅力的な地域に生まれ変わった。

さらに、「郷の恵『風輪』」への出荷は、横輪町民に限らず、その周辺 4 町もあわせた沼木地区全体で行っていることから、「郷の恵『風輪』」における

売上増加は周辺地域の生産者にもメリットをもたらすことになっている。

これらのことから、横輪町では「郷の恵『風輪』」を拠点とした持続可能な地域ビジネスが確立されつつあると言える。

「郷の恵『風輪』」を活動拠点として展開してきた横輪町活性化委員会の取組は、来訪者数や売上の増加、特産物の生産力向上等、地域への経済的メリットという目に見える形で成果をあげ、さらにイベント等の開催を通して、都市住民にとっての「癒しの場」、子供たちや学生にとっての「学びの場」、各種サークル活動団体にとっての「発表の場」、来訪者や横輪町民にとっての「交流の場」など、それぞれの参加主体にとって価値ある場の提供をしていることの意義も非常に大きいと言える。

横輪町活性化委員会では、「むらづくり」において最も重要なことは、地域を愛し、地域のために活動する人材を育てる「ひとづくり」であるにとらえており、横輪町を未来につなげるための後継者の育成にさらなる意欲を見せている。

横輪町活性化委員会の「ひとづくり」の理念のもと、町民たちの活動は今後も継続し、さらに発展する可能性をも十分に持っている。